

夜間運転 危険明確に

イケガミ「保安ドラム」改良

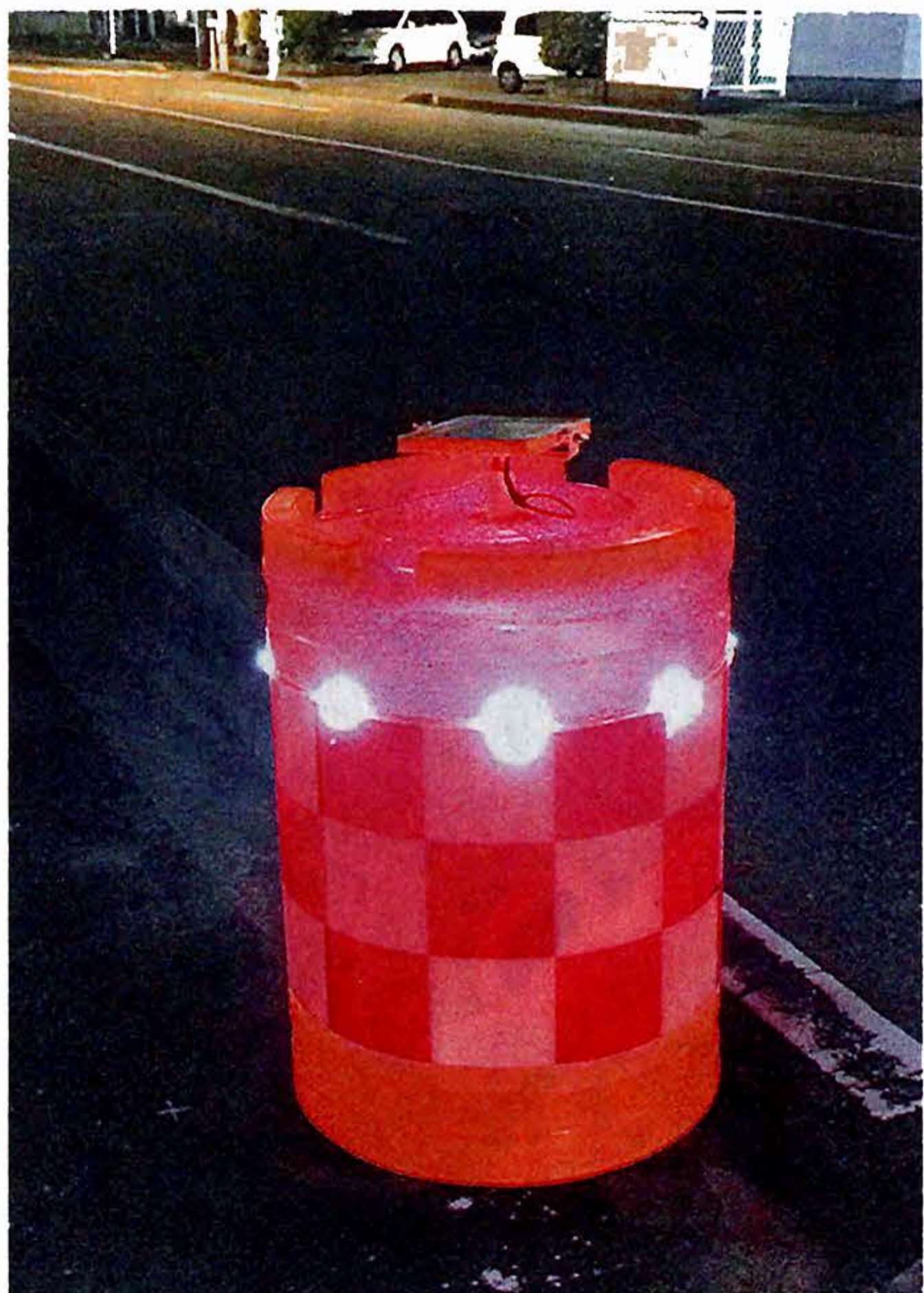
土木資材やロードサービスなどのイケガミ(石川県小松市)は、太陽光発電を利用した道路保安用のクッションドラムの改良型を商品化した。夜間での視認性を一段と高め、価格も抑えた。従来型のドラムは交通事故の減少に一定の効果があったとみて、新製品も官公庁を中心に販路を広げる。

(坂本正範)

ドラムは車が家屋に衝突するのを防いだり、ドラムに接触した時の衝撃を緩和したりするため道路に設置する。イケガミの商品は、太陽電池パネルを上部に設置し、昼間に充電して夜に自動的に点灯する仕組み。二〇一二年に販売し、これまでに地元を中心に約三百個を販売した。ライトに省

エネ性が高い発光ダイオード(LED)を採用。太陽光を利用することで電池交換が必要なく、山間部など交通事情が不便な場所でも使える。こうしたドラムは国内で初めて。機能性が評価され、石川県の建設新技術に認定されている。

改良型は、遠くからより見やすくするため、白色LED



胴体にLEDを装着したクッションドラム。夜間の視認性をより高めた。石川県小松市内で

視認性高め低価格に

LED八個を付けたリング状の装置をドラムの胴体部分に付けた。これにより電力の消費量が増えるが、太陽電池パネルを二割程度大きくすることで、従来型とほぼ同じで十八時間連続で点灯できるようにした。池上茂雄社長は「胴体の赤色の点滅と白色LEDがはっきり分かる。視認性が全然違う」と話している。

イケガミによると、太陽光発電式を置いた小松市内の県道では、ドラムにぶつかる事故が年間で設置前の五件から一件に減った。同社は事故対応のロードサービスも業務で、事故の発生状況を調べてドラムの効果を確認した。

価格は従来型より一万円程度高い四万円台に設定。同社は中国で大量生産できる体制を構築しており、材料などの調達費を安くできる。

実用新案を出願しており、四月に発売。従来型と同様、道路や工事現場のほか、歩道や公園などでの利用を想定し、北陸地方を中心に販売する計画だ。